

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水との関わりを見る(水溜まり有り)

<テーマの設定理由>

4月より、園庭の水道や水溜まりで遊ぶ姿が多く、水で遊んでいる時間が長い事に気付いた。水遊びの中でどのような事に興味を持っているのか疑問に感じた為、水と関わる子どもたちの様子を追ってみる事にした。

2. 活動スケジュール

令和6年6月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

洗面器、タライ(大小)

*水との関わりを追っていく為、園庭玩具は用意しない。

*前日に雨が降っていた関係で、水溜まりも環境の一部とする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水溜まりの上を走って行き来する。
- ・洗面器を使い、水溜まりの水をすくったり流したりする。
- ・蛇口をひねって水の量を調整したり、水道の蛇口を握ったりして、様々な方向に水を飛ばす。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

○子どもたちの発見や感じているであろう事を保育者が考えながら、子ども自身が水と関わる姿を見守っていった。

- ・水溜まりを走って行き来する事を繰り返す。
- ・水溜まりの上を大きく足踏みした後、水際をじっと見つめる。
- ・葉っぱを水溜まりに浮かべる。
- ・水道の蛇口をひねり、水の落下点に指先を当てたり、手を洗ったりして、「冷たいね」と言葉を発する。
- ・洗面器に水道の水をいれると、手の甲を上にして、ゆっくり手を沈めたり上げたりする事を繰り返す。
- ・洗面器で水溜まりの水をすくったり、流したりする事を楽しむ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

前日の雨によって出来た大きな水溜まりに興味を持ち、水溜まりの上を走ったり、飛び跳ねたりする姿が多く見られた。また、水溜まりの上で大きく走った後、水際で立ち止まり、水面をじっと見る姿から、水が外側に逃げていく様子や、細かい気泡に気付いたのではないかと考えた。水溜まりがあったからこそ、遊びが盛り上がったのではないかと感じ、水溜まりが無い環境ではどのような遊びをするのか疑問に感じた。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭にて、水溜りがない時の水遊びの様子をみる

<テーマの設定理由>

水溜りがある時は、水溜りの中に入ったり走ったりしてダイナミックに遊ぶ姿があった為、なかった時にはどのように水と関わるのかを観察する。

2. 活動スケジュール

令和6年6月中旬、園庭の水溜りを無くして水道と洗面器のみという環境で様子を見る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

園庭の水溜りを排水し、洗面器のみを用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水道から洗面器に水を入れて明け移す。
- ・蛇口から出る水の感触や冷たさを手指で味わう。
- ・蛇口をひねり水の勢いを変える。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

○子どもが感じているおもしろさや不思議さ等の姿を言葉や動き、表情から汲み取りあまり保育者が介入し過ぎずに見守っていた。

- ・Aが水を掴み「あむあむおいしい」と食べる真似をしていると、近くで見ていたBも一緒に食べる真似をする。しばらくすると、BがAの顔に水を塗り「ままのけしょうすいベタベタ」と塗り、水で見立て遊びを楽しむ。
- ・Cは水溜りで遊びたかったのか、洗面器に水を入れて水溜りがあった場所に水を何度も運んでは流し入れて水溜りを作ろうとする。60cm程度の小さな水溜りが出来ると、<水溜りあり>と同じような遊び方で水遊びを楽しむ。
- ・Dは水道で水の着地場所が（水の勢いで砂が流れて）丸く下の白いタイルが見えていることに気が付くと指で触ってみる。何度か触ると、地面の砂を握り落とす。直後は砂で丸い円は崩れるが、しばらくすると水の勢いで元に戻る様子をじっと見ては、同じことを繰り返す。数回繰り返すと砂をゆっくりと落とす姿に変わり、白いタイルの上を泥水が広がっていく様子を見ている様だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

園庭に出ると、水溜りがない事もあり水道に集中して遊び始めていた。蛇口が3個しかない事もあり、満足以遊ぶことが出来ず次第に子どもの姿が減っていった。初めは蛇口を手で掴んで水の勢いが強くなったり指の隙間から水しぶきが跳び顔や身体にかかったりする様子を楽しんでいたが、次第に洗面器や石、葉っぱ等物を介して水遊びをする姿に変わっていった。また、水溜りがある時よりも水でじっくり遊ぶ姿は少なく、水遊びを楽しむ時間が短かった。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭の水溜りに設定された泡と触れ合いながら遊ぶ

<テーマの設定理由>

水溜りがある状態で遊ぶ子ども達の姿を追っていく中で、水溜りの上で足踏みをした後、水際をじっと見つめる子どもの姿がある事に気付いた。その際、「水溜まりの上を足踏みした事で、泡ができた事に興味を持ったのでは?」という保育者の視点から「泡」を水溜りの中に設定し、子ども達は水溜りの中で発生する泡にはどのような反応を示し、関わろうとするのかを見ていくことにした。

2. 活動スケジュール

①令和6年7月11日

・子ども達が園庭に出る前に、あらかじめ作った泡を水溜りの上に浮かせておき、泡との関わりを見守っていく。

②令和6年8月27日

・水溜りの中に入浴剤をあえて泡だたせない状態で入れておく。子ども達が入水し、動く中で泡が出来ていく事にどのような反応を示すのかを見守っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・洗面器

①水溜り+ボディーソープ

②水溜り+入浴剤（1～3袋）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水溜りの中にある泡を掬ったり、割ってみたりする。
- ・足を動かし、泡を作ってみる。
- ・泡の動きを見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・泡が崩れないようにゆっくりと両手を置いてみる事で、泡の感触を両手の平で感じていた。
- ・水溜りに浮かんでいる泡のみを、洗面器で掬いとり、より近くで泡の形を見ていた。
- ・手の平で自分の身体や他児の身体を洗うようにして、泡を纏っていた。
- ・泡が身体に付くのを不快に感じたのか、なるべく動かないようにして、泡が水の流れに乗って自分の近くに来ないようにしていたり、手の平で泡を潰したりしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

初めは泡が水溜り一面にあることに戸惑う児もおり、触れるのに時間がかかる姿もあった。次第に環境に慣れ触れていく中で、泡を掬ってみたり踏んでみたりしながら感触を楽しんでいた。水溜りの中にあらかじめ泡があった時に比べ、入浴剤のみを水溜りに入れていた時の方が水溜まりの要素が多かった事で積極的に入っているようにみえた。全体を通して子どもと泡との関わりは水のみに関わりよりも短く、子ども達は泡よりも水への興味の方が強いと感じ、再び水に戻って、違ったアプローチの仕方を探っていきたいと思う。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テラスにて、色水との関わりを見る

<テーマの設定理由>

室内遊びの中で、色水のセンサリーボトルやブロックを手にとって、「赤」「青」等と色に着目して表現する姿が多くなってきた。その為、「水」と「色」を組み合わせたらどのような水との関わりになるのかを追ってみる事にした。そして、夏にテラスでダイナミックな水遊びをしてるのでテラスで行う。

2. 活動スケジュール

大タライの中に透明の水と、単色（赤→青→黄）で8月9月にかけて3日間ずつそれぞれ環境を設定し、色水との関わりを見る。その後透明の水と、3色の色水を用意し、単色と複数色の違いや子どもの様子を追っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

粉絵の具（赤、青、黄）、アイシングカラー、大小様々な透明容器、大タライ×5、穴の開いたホース。3原色の色を始めは1色ずつ順番に出してみる（赤→青→黄）。次に、単色との違いを見るために三原色を同時に出して色水との関りを見る。色水だけでなく、夏の水遊びの延長でもあるので、引き続き透明な水を子どもたち自身が汲んだり触れたりできるようホースに穴を開けたものから水を出す。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

色水を使ってダイナミックに遊ぶ。また色水を使って見立てたり、つもり遊びをしたりする。色から子どもたちなりに何かを連想したり、移し替えを楽しんだりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・移し替えをする中で、中の色水の動きを見たり、泡が消える様子を見たりと手首の角度を調節しながらじっくりと遊ぶ姿があった。
- ・色から味や赤は熱い、青は冷たい等温かさ等の温度を連想する児もいた。
- ・単色で赤から青色に変わった日には色の違いに気が付き、「青」と言葉にする。
- ・タライに張った色水に手を沈めてゆっくりと上げてみたり、透明な容器に入れて交互に移し替えたりしながら、濃い色水に薄い色水を足す等して、色の変化を楽しんでいた。
- ・色を混ぜず容器の中にある色水を流してから、違う色を容器の中に入れる児が多くいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

単色でも混色でも、ダイナミックに遊ぶよりもじっくりと移し替えを楽しむ姿が多かった。混色にしても赤と青が混ざって色が変わったということには気が付くものの、紫になったと色が混ざったことによる、色の違いを発する児はいなかった。保育者が子どもたちの前で色を混ぜ合わせてみて、不思議そうな表情をする児もいたものの、言葉や仕草等の反応があまりなかったので、色のついた水か水という判断をしているのかなと感じた。しかし、色の違いによって赤は熱い、青は冷たい等と温度を表現していた。又、アイシングカラーで透明の青色水を用意したことで不思議そうに双方を見比べていた。同じ青色でも透明度や、なに（粉絵の具は不透明、アイシングカラーでは透明な色水になる）で色をつけるかによって様々な青色があるため、同じ青色でも様々な青色と触れたり、見比べたり違いに気がつけるように粉絵の具で色づけた色水とアイシングカラーで色づけた色水と一緒に出した。水に色がついていることで水の流れや動きがわかりやすいから、水の移し替えをじっくりと楽しんでいるのではないかと感じた。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭にて、色水との関わりを見る

<テーマの設定理由>

テラスにて色水との関わりを見ていたものの、水の移し替えが多かった。子ども達の大好きで遊び慣れている園庭に同じ環境を設定したらどのような色水との関わり方になるのか、遊び方になるのかを見てみる。

2. 活動スケジュール

令和6年9月中旬に園庭に三原色の色水の入ったタライを各色1つずつ置き、子どもたちの遊びの様子を見る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

赤、青、黄色の三色の色水をタライに入れて、園庭の真ん中に置き、周りに大小様々な大きさや形の透明の容器を複数個用意する。色水が無くなったらずに足せるように用意をし、テラスとの違いや子どもの様子を追う。

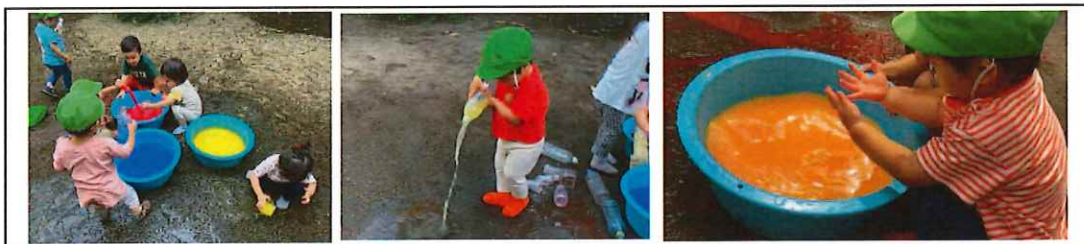
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

大きささまざまな透明容器を複数個用意し、色水の移し替えや様々な角度からじっくりと見る。その中で色に興味を持ったり、色の違いなどに気付いたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

園庭に出ると、それぞれタライに入った赤・青・黄の色水に興味を持って向かう姿があった。ペットボトルや透明のカップに汲むと、隣においてある色水のタライの中に入れ、色が変わる様子に気づく児がいた。また、色水をカップに入れると、「みず」「ブルー」「あか」等、様々な表現で保育者に伝えていた。容器に入れた色水に水道の水を入れたり、砂の上に流したりして、色水が窪みに流れていく様子を見る等、テラスとは違う園庭ならではの遊び方が見られた。容器を使って1色ずつ汲む姿や、他児の持っている容器に同じ色の色水を入れようとする姿もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

はっきりとした色の色水を、大タライいっぱい水量で用意した。水量が前回よりも多かったからか、色水に興味を示す児と水道の蛇口に向かう児と半分ぐらいずつで別れていた。タライの中の色水がなくなっても2,3回できるように色水を用意していったことで子どもが満足するまで色水と関わっていたように思う。色水という事もあり、言葉はないものの見立てやすかったようで、保育者の口元までペットボトルに入れた色水を持ってきて飲み物に見立てているようだった。保育者も飲む真似をしたり一緒に乾杯したりしてその児の世界観と一緒に繰り返し楽しんでいった。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

透明容器を用いて水遊びをする

<テーマの設定理由>

水との関わりから泡や色水等の様々な要素を追加してみたが、その結果から子ども達は純粋な"水"そのものの触れ合いを楽しんでいるのではないかと考えた。そして、より水の動きや流れを感じられるよう、透明な容器を用意し、もう一度水との関わりを見てみる事にした。

2. 活動スケジュール

令和6年11月28日/11月29日

園庭に用意されたビニールプールに入ってみたり、透明容器を介して水と触れ合いながら遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・透明容器(洗面器、ペットボトル、キューブ型、コップ型)
- ・ビニールプール

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水が張られたビニールプールで、全身で水の感触や動きを楽しむ。
- ・用意された透明容器から好きな形の物を選び取り、水を移し替えたり流したりして、水と触れ合いながら遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・容器から容器へと移し替える事で、水が流れていく様子を見ていた。
- ・ペットボトルに水を入れようとする。最初はペットボトルの口からこぼれてしまう事もあったが、何度か繰り返すうちに、キューブ型の容器の角を飲み口に当て、溢れないように入れようとしていた。
- ・ビニールプールの水を、両手で思い切り叩きながら水を跳ねさせてみる等、ダイナミックに全身で水を感じながら遊んでいた。
- ・容器に溜めた水を砂場に持っていき、一気に流し入れ、水が染み込んでいくのをじっと眺めていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

ビニールプールではダイナミックに、透明容器ではじっくりと水に向き合って遊ぶという、子ども達の遊び方に違いは見られたものの、やはり色水や泡に比べて長い時間遊んでいる様子があり、子ども達は水そのものの触れ合いを楽しんでいるのだと感じた。また、透明容器を用意した事で、普段使っている園庭の玩具に比べて、容器の横や下から覗き込むようにして見てみる等、水の見方も広がっていたように思った。